

風水害への備え

内水・外水の違い

内水はん濫

降雨は、普段は側溝などを通じて河川に放出されます。しかし、最近のゲリラ豪雨のような雨が降ると、側溝や下水道の排水能力が追いつかなかったり、河川の水位が上昇して排水出来ないことがあります。このように、降雨が川に辿り着く前に地域であふれる状態を「内水はん濫」といいます。



外水はん濫

大雨によって河川水位が高くなると、堤防を超えて水があふれたり（溢水）、堤防が壊れたり（決壊、破堤）することがあります。このようなことが原因で生じるはん濫を「外水はん濫」といいます。大量のはん濫流が一気に市街地に流入し、広範囲に深刻な浸水被害が起こる場合があります。



浸水時の水深・流速と避難のしやすさ

浸水時の避難は非常に危険なため、早めの避難がとても大切です。流れの速さは、同じくらいの水深でも場所によって大きく違います。また、水深の深い場所より浅い場所の方が速い場合もあるので注意しましょう。

水深(m) \ 流速(m/秒)	1.0m以上	0.5~1.0m	0.5m未満	避難の可能性の目安
1.0m/秒以上	危険	不可能	困難	流される可能性があるために避難は危険です。
0.5~1.0m/秒	不可能	困難	可能	水深がひざ以上(0.5m以上)になると流される危険があります。
0.5m/秒未満	困難	可能	可能	水深が腰以上(1.0m以上)になると流される危険があります。



- 家屋の倒壊・流出のおそれがあり、浸水時の避難は不可能
- 歩行不能であり、浸水時の避難は不可能
- 浸水時の避難は困難
- 浸水時の避難は可能ではあるが、注意は必要

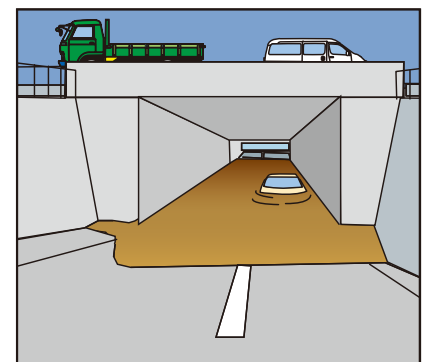
※標記に示されている目安は成人を想定したものです。
 ※出典「洪水ハザードマップ作成要領」(平成14年9月)より

アンダーパス・地下道の危険性

アンダーパス・地下道とは、交差する鉄道や道路などの下を通過するため、周辺の地面よりも低くなっている道路のことをいいます。そのため地形的に雨水が集中しやすい構造となっています。

近年、集中豪雨（ゲリラ豪雨）の多発により、アンダーパスが冠水することで車両が水没するなどの重大な事故が発生しています。

- 1 道路が冠水している状況を見つけた場合には、不用意に通行せず、迂回するなどの危険回避を最優先で行ってください。
- 2 万が一このような冠水した道路に進入した場合には、まずは冠水場所から脱出し、冠水の恐れがない安全な場所に退避してください。



※地図面ではこのマークで表示しています。

